

まち・ひと・しごと創生

小浜市総合戦略

有識者会議 平成 30 年度評価結果



令和元年 8 月

企画部人口増未来創造課

1. 評価について

平成 27 年度に策定した「まち・ひと・しごと創生 小浜市総合戦略」は、本市の課題と
 である『人口減少への対応』に特化した 5 ヶ年の行動計画で、第 5 次小浜市総合計画の実
 現に向けた取り組みを取りまとめたものです。

計画では、それぞれの取組みに対し、平成 31 年度を目標年次とした数値目標や重要業績
 評価指標(K P I¹)を設定しており、各年度末に進捗状況を評価し、目標や指標の達成に向
 けた事業推進につなげていくこととしています。

2. 評価基準について

評価シートにおける評価基準は「まち・ひと・しごと創生 小浜市総合戦略」で定めた
 平成 31 年度における K P I に対しての到達状況を以下のとおり 4 段階(A～D)で示してい
 ます。

A…平成 31 年度の目標値に到達している。(達成)
B…平成 31 年度の目標値に到達していないが、数値が上昇している。(順調)
C…基準値(策定時)と数値が同一である。(停滞)
D…基準値より数値が下降している。(縮小)

3. 平成 30 年度 K P I の達成状況について

平成 27 年度に策定した『まち・ひと・しごと小浜市総合戦略』で設定した全 59 項目に
 ついて、平成 31 年 3 月末(推計含む)を基準日として調査しました。

戦略策定時の基準値からの数値の推移について、達成段階により A～D の記号で判定し
 た結果、A 判定(平成 31 年度の目標値到達)が 27.1%、B 判定(基準値より数値が上昇)
 が 45.7%、合計で 70%以上(昨年度比較 11.0%上昇)の項目が目標達成に向けて順調に
 推移しています。

(下表のとおり)

判定記号	項目数	構成比	参考) 前年値
A (達成)	16	27.1%	15 / 25.4%
B (順調)	27	45.7%	21 / 35.6%
C (停滞)	4	6.8%	5 / 8.5%
D (縮小)	6	10.2%	12 / 20.3%
— (判定なし)	6	10.2%	6 / 10.2%

判定記号の説明

- A…平成 31 年度の目標値到達 (達成)
- B…目標値に達成していないが、数値が上昇 (順調)
- C…基準値と数値が同一 (停滞)
- D…基準値より数値が下降 (縮小)

¹K P I (重要業績評価指標) …Key Performance Indicators の略。事業ごとの進捗状況を検証するために設定する指標。

4. 有識者会議における委員からの意見等

平成31年3月27日に開催した『まち・ひと・しごと小浜市総合戦略 有識者会議』において意見交換した概要は次のとおりです。

全体) 地方創生のに向けた各種事業について

- ・ 推進交付金採択事業は30年度で終わるが、その総括と31年度事業への反映は？
 - これまで、鯖の生産に目を向けてきて、生産体制はある程度整備が進んだが、強みを生かした展開が弱かったため、生産を強化しながら人材育成や販路の拡大など、PR等にしっかり取り組むことが必要と考えている。特に、敦賀開業や大阪延伸などをチャンスとして結び付ける必要がある。同時に、30年度までは観光をメインに内外海を中心に展開していたが、移住に結び付いていない。
 - 31年度以降は食関連の人材育成に取り組む。都会から人材を呼び込み、育成、起業に結びつけることで定住移住に結び付ける取り組みを目的に展開をしたい。邑南町でも成果を上げている地域おこし協力隊を活用した展開を考えている。食に関することを基盤産業化したいという思い。
- ・ 31年度からの取り組みが敦賀からのお客さん獲得につながるかが課題
 - 交流人口の拡大を目指して4年間やっていきたい。そのため、日本遺産、食を生かした事業展開を考え、アクションプランの策定を進めている。
- ・ 総合戦略では、重点的に取り組む事業を掲げているが、それらの事業評価も必要である。KPIは目標達成のための評価指数として重要であるが、KPIの数値以上に、取組自体ができていないのか、いないのかを評価・検証することが重要。
- ・ 有識者会議においては、特に重点的に取り組む政策に関連する事業については、担当課も同席してほしい。(総合戦略担当課だけでは、事業の概要説明になってしまうため)

1) 地元就職率について

- ・ No.4 30年度に急激に上昇しているが？
 - 地元就職率とは、高校生の就職割合のことであり、おおい町の発電所の再稼働の関係などもあり、30年度は地元(現場)に就職する学生が伸びた。他方で、一度進学すると帰ってこない傾向が続いている。
- ・ 課題は？
 - 行政が就職・進学について高校に干渉することはむずかしいが、特に進学後のUターンは人口に直結するため、ハローワークと連携し地元定着に向けて取組を強化する。また、学生が地元の企業を知らない(どんな会社があり、どんな仕事があるのか)ことが課題と考えている。今後、高校生へのアプローチを行う。
 - また、小中学生でのキャリア教育や、若狭高校SSHにおける地域探求等の取組により、自分の住んでいる地域を活性化したいといった郷土愛を持つ学生が増えている。これを、将来の地元就職やUターンに繋げたい。

2) 北陸新幹線について

- ・敦賀開業時の人の流れと対策はどうなっているか。

→例えば No. 11 の教育旅行は、30 年度は約 5,700 人が利用するなど、利用増が続いているが、集落だけでは受け入れが限界となってきた。同じ内外海地区では、新たな民間企業が設立されたり、SAVOR JAPAN の取組において体験事業の磨き上げを進めている。小浜を目的地化し、敦賀から小浜へ人の流れを作るためには、これらの取組を横展開で拡大し、受け入れ態勢を整備することが重要と認識している。

- ・長野からみた小浜のイメージは？（同席した県立大学の学生に対し）

→長野から海を目指す場合、新潟に行く。小浜や福井の情報は入ってこない。どの地域でも海があり、小浜に特別感はなく、福井へ来ても有名な東尋坊や和田浜、水晶浜に行く。

その他、K P I ごとの意見については、別途意見シートにより聴取しました。

（下記聴取結果は 6. 評価シート内にも記載）

5. 評価結果の一覧

基本目標ごとのKPIの評価結果一覧については、下記に掲載のとおりです。

まち・ひと・しごと創生 小浜市総合戦略 平成30年度評価結果一覧表

基本目標（1）産業の振興、安定した雇用の創出による働きやすいまち

No.	重要業績評価指標（KPI）	基準値	H31 目標値	H30 現状値	評価
基本的方向①企業誘致および市内企業の育成による雇用創出					
1	新規企業誘致数（5年間）	4社 H22～26合計値	2社	1社(2)	A
2	産業団地整備状況 （市が保有する産業団地の分譲面積）	1.8ha (H27)	3.5ha	0ha(0)	C
3	空き店舗等を活用する事業所数	—	3件	1件(6件)	A
4	新規学卒者の地元就職率	56.1% (H26)	80%	71.6%	B
5	育児休業取得率	47.0% (H26)	67%	48.0%	B
基本的方向②農林水産業の成長産業化と六次産業化による雇用創出・新たなブランドの育成					
6	担い手への農地集積 （本市の農地面積のうち、認定農業者や集落営農組織の農地面積が占める割合）	38.5% (H27)	80%	58.3%	B
7	新規就農に向けた研修者数（5年間）	—	15人 5人	1人(3)	C
8	多面的機能支払の 農振農用地面積カバー率	—	100%	84.9%	B
9	有害鳥獣の個体数調整（シカ）（1年間の有害鳥獣の捕獲数）	2,184頭 (H27)管理規定に基づき設定	2,184頭	コホンジカ 970頭	D
10	漁業士の人数 （地域の中核的存在となる「青年漁業士」、後継者の育成に指導的役割を果たしている「指導漁業士」の人数）	8人 (H27)	10人	6人	D
11	漁村の体験交流施設における 地区外交流人口 （ブルーパーク阿納の1年間の利用者数）	3,500人 (H27)	4,700人	5,485 (学生のみ) ※一般含： 5,900人	A
12	養殖における新規魚種の導入	—	2魚種	2魚種	A
13	六次産業化および新規特産品開発 取り組み事例件数（5年間）	—	15件	4件(17)	A
基本的方向③民間資源を活用した地場産業の活性化					
14	民間資源を活用した企業数（5年間）	—	2社	2社(3)	A

基本目標（２）定住人口の維持、交流人口の拡大による出会いのあるまち

No.	重要業績評価指標（KPI）	基準値	H31 目標値	H30 現状値	評価
基本的方向①定住・移住の推進					
15	インターネット接続世帯率 フリーWi-Fiスポット数/H30～	59.7% (H27) 26 か所	64% 32 か所	28 か所	A
16	UIJターサイトへのアクセス数	—	12,000 件	19,000 件	A
17	お試し体験住宅事業を利用して定住に 結びついた件数	—	3 件	1 件(2)	B
18	小浜市住まい支援事業の利用件数 (5 年間)	—	30 件	4 件(12)	B
基本的方向②歴史・文化・食を活かした交流人口の拡大					
19	観光交流人口 (市内の観光施設等に訪れた1年間の観光客数)	167 万人 (H27)	200 万人	184 万人 (H30)	B
20	施設の宿泊・利用者数 (市内の宿泊施設の1年間の宿泊・利用者数)	350,000 人 (H27)	500,000 人	373,400 人 (H30)	B
21	観光消費額 (宿泊費、交通費、土産代、入場料等の1年 間の合計額)	100 億円 (H26)	140 億円	110 億円 (H30)	B
22	食文化館来館者数	240,000 人 (H27)	347,000 人	190,000 人 (H29)	D
23	地域おこし協力隊員数 (5 年間)	—	15 人	4 人(12)	B
24	外国人観光客宿泊者数	635 人 (H26)	1,500 人	3,500 人 (H30)	B
25	新規観光業者数 (5 年間)	—	5 社	2 社	B
26	秘伝めぐりバスツアー集客人数	—	600 人	—	—
27	女性落語家コンテスト参加人数	—	75 人	98 名	A
28	国際交流関係イベントへの参加者数 (市内で活躍する国際交流関係グループが実 施するイベントへの1年間の参加者数)	1,100 人 (H27)	1,100 人	1,780 人	A
29	教育旅行受入れ人数 (ブルーパーク阿納の1年間の利用者数)	3,500 人 (H27)	4,700 人	5,485 人 (学生のみ) ※一般含: 5,900 人	A
<u>27</u>	女性落語家コンテスト参加人数 (再掲)	—	75 人	98 名	A
<u>26</u>	秘伝めぐりバスツアー集客人数 (再掲)	—	600 人	—	—
30	中心市街地の歩行者・自転車等通行量 (中心市街地6地点における平日1日の歩行 者・自転車通行量)	4,500 人 (H27)	4,600 人	4,270 人	D
31	中心市街地の観光交流人口 (中心市街地のホテル等宿泊者数と観光施設 利用者の1年間の合計)	120,000 人 (H27)	350,000 人	274,388 人	B

基本目標（３）若い世代の希望を実現し、次代を担う人を育むまち

No.	重要業績評価指標（KPI）	基準値	H31 目標値	H30 現状値	評価
基本的方向①子育て支援					
5	育児休業取得率（再掲）	47.0% (H26)	67%	48.0%	B
32	地域子育て支援拠点事業利用者数	14,134人 (H27)	19,693人	17,700人 (H31.3末)	B
33	小浜の子育て関連『まとめサイト』へのアクセス件数	—	25,000件 H30→ 35,000件	37,000件	A
基本的方向②婚活支援					
34	生涯未婚率 —(45歳～49歳の未婚率と50歳～54歳の未婚率の平均値で、50歳時未婚率を表す指標) →H31 婚活支援事業での成婚数5組(延べ数)	男性： 21.0% 女性： 5.6% —(H27)	成婚数5組 (通算数)	4組	B
基本的方向③妊娠・出産支援					
35	不妊治療費助成者数	28人 (H26)	30人	40人 (H30見込)	A

基本目標（４）誇りと愛着を持ち、安心して住み続けられるまち

No.	重要業績評価指標（KPI）	基準値	H31 目標値	H30 現状値	評価
基本的方向①協働のまちづくりの推進					
36	市民自ら企画し実践する事業の提案件数	10件 (H26)	14件	9件	B
37	まちづくり協定地区数（5年間）	5地区	12地区	12地区	A
38	自主防災組織の結成団体数 (自主防災組織の登録団体総数)	82団体 (H27)	148団体	111団体 (見込)	B
39	避難行動要支援者の個別支援計画策定割合災害時要援護者登録者数 —(災害時要援護者支援制度登録者総数)—	18.0% 998人 —(H27)—	80.0% —(法令・基準の改正に伴い見直す (算定中))	54.7%	B
基本的方向②郷土愛を育む教育の推進					
40	義務教育の充実に対する満足度 (市民意識調査において学校教育に対して「満足」「まあ満足」と回答した人の割合)	37.3% (H27)	47.0%	—	—
41	学級・講座の受講者数 (各公民館で開催した各種学級・講座の1年間の受講者数)	3,021人 (H26)	3,000人	2,800人	D
基本的方向③農山漁村および中心市街地の活性化					
42	本市らしい景観がまもられていると感じている市民の割合 (市民意識調査において本市らしい景観がまもられていると感じている市民の割合)	36.0% (H27)	47%	—	—

43	自然環境がまもられていると感じている市民の割合 (市民意識調査において自然環境がまもられていると感じている市民の割合)	47.0% (H27)	57%	—	—
基本的方向④食文化の発信による食のまちづくりの推進					
44	キッズ・キッチン（基礎編）の参加者数	176人 (H26)	270人 →216人	254人	B
45	市外からのキッズ・キッチン（拡大編）の受け入れ	92人	140人	100人	B
46	食文化館サイトへのアクセス数 →SNS（フェイスブック）のリーチ数	—	10,000件 →1,000件	843件	—
基本的方向⑤高齢者福祉体制の充実					
47	小浜市の健康寿命年齢 (心身ともに自立し、健康的に生活できる寿命の平均年齢)	男性：78.0歳 (H25) 女性：82.6歳 (H25)	男性：79.3歳 女性：83.1歳	男性：78.2歳 女性：81.8歳	B
48	特定健康診査受診率	34.7% (H26推計値)	55.0%	37.3% (H29)	B
49	がん検診受診率	38.0% (H25)	48.3%	42.7% (H28)	B
50	要介護認定率 (第1号被保険者に占める要介護認定者の割合)	19.4% (H27)	21.1% →19.1%	18.6%	—
51	認知症サポーター数啓発	1,900人 (H27)	4,000人	5,022人	A
52	施設入所率 (要介護認定者に占める施設入所者の割合)	30.5% (H27)	26.5%	27.8%	B
53	ふれあいサロン参加者数	10,200人 (H27)	10,800人	10,320人	B
54	ふれあいサロン開催区	—	117区	106区	C
基本的方向⑥都市機能の再整備と地域交通の充実					
55	JR小浜線乗車人員数 (一日あたりの平均乗車人員数（西敦賀駅～青郷駅）)	4,000人 (H26)	4,000人	3,900人 (見込み)	B
56	あいあいバスの乗車人数	90,000人 (H26)	90,000人	84,000人	D
57	小浜市立地適正化計画の策定	—	策定済	策定済	A
基本的方向⑦広域連携の推進					
58	広域連合の設立	—	設立	調整中	C
59	広域連合による連携事務		5事業（事務処理開始初年度）	2事業(2)	B

6. 評価シート

K P I ごとの評価状況については、評価シート（別冊）のとおりです。

7. 総合戦略の見直し

総合戦略（K P I 含む）については、達成状況や有識者会議の意見などをもとに、目標やK P Iなどを必要に応じて改定を行います。（P D C Aサイクルの実施）

設定したK P Iが現状にあっていない場合やより相応しい数値設定が発現した場合等は、おおむね下記の手順により総合戦略の見直しを行うものとします。

- ①有識者会議の意見をふまえ、改定必要部分の洗い出し（事務局）
- ②改定案の検討、作成（担当課）
- ③改定案の調整（事務局）
- ④改定案の説明、意見集約、調整（有識者会議）
- ⑤改定案の決定（庁議）
- ⑥改定案の公表（市公式HP）

【主な見直し点】

- ・評価困難な項目、既に大きく目標値を上回る項目等、K P Iの見直し

K P I 設定変更

- No. 26 事業終了に伴い、KPI 削除
- No. 34 生涯未婚率→婚活事業を通じた成婚者数
- No. 50 要介護認定率 H31 KPI を削除

- ・目標値変更

- No. 7 就農に向けた研修者数
当初目標値 31年度までに通算 15人→変更後 5人
- No. 44 キッズ・キッチン参加者数
当初目標値 270人→変更後 216人

- ・内容修正（時点修正）

基本的方向⑥ 都市機能の再整備と地域交通の充実

P. 43 2) 地域交通の充実

① 広域鉄道網の整備

- ・北陸新幹線については、平成 29 年 3 月に決定した小浜・京都ルートにより早期着工されるよう、積極的な要望を展開するとともに、2022 年度に予定されている北陸新幹線の敦賀開業効果を最大限に得るため、具体的な行動計画を定めた「御食国若狭おばま北陸新幹線敦賀開業アクションプラン」の他、県が策定した「福井県高速交通開通アクション・プラン」および策定予定の嶺南地域公共交通網形成計画との整合性を図りながら、駅前周辺整備を含めた受入れ環境を整備します。

重点的に取り組む事業

P.46 「産業の振興、安定した雇用の創出による働きやすいまち」関連

事業名	空き工場等活用事業、まちなか等活力支援事業
事業の目的	市内に点在する空き店舗、空き工場等を利用した事業者や起業家に対し必要な支援措置を講ずることにより、市内における雇用の場の創出と産業の振興を図ることを目的とします。
事業の概要	<p>○事業対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の事業者、新規に事業所を開設する事業者 <p>○事業内容</p> <p>空き工場等活用事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者が未使用の工場等を活用するために要した用地取得や改装経費等に対し補助 ・対象経費の2分の1以内 (雇用要件(等)により上限15,000千円～30,000千円) <p>まちなか等活力支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規事業所開設事業者が市内の空き店舗等を利用した場合の改装費、賃借料に対し補助 ・対象経費の2分の1以内 (雇用要件等により上限300千円～1,500千円) <p>特定エリア空き店舗対策事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR小浜駅前から海の駅までのルート上の空き店舗への出店費用の一部を補助 ・対象経費の2分の1以内
期待される効果	<p>新たな雇用の機会の増加により、地元での就職者が増加することが期待されます。</p> <p>空き店舗、空き工場等の有効活用により、まちなかでの遊休地が減少することが期待されます。</p>
K P I	①空き店舗等を活用する事業所数：3件

P. 47 「定住人口の維持、交流人口の拡大による出会いのあるまち」関連
追加

事業名	新まちづくり構想および基本計画策定事業
事業の目的	北陸新幹線全線開業による交流人口の拡大や新たな企業進出等に向け、新幹線を最大限活用した新たなまちづくり構想を策定する。
事業の概要	<p>○事業内容</p> <p>庁内ワーキンググループにて作成した新まちづくり構想（素案）について、市民や有識者から構成する策定委員会の審議を経て、構想を策定する。</p> <p>併せて、市民と行政が新幹線を活かしたまちづくりの方向性を共有し、機運を醸成するため、講演や講座等を開催し、市民への浸透を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新まちづくり構想策定委員会の開催 ・新幹線講座、シンポジウム ・新幹線市民提案講座、パブリックコメント <p>関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御食国若狭おばま北陸新幹線敦賀開業アクションプラン ・福井県高速交通開通アクション・プログラム ・嶺南地域公共交通網形成計画
期待される効果	北陸新幹線全線開業に向け、新しいまちづくりの方向性（指針）を示すことで、行政、市民、企業、団体が協働し、新しいまちを創りあげていく。
KPI	—

- ・その他、KPI 設定変更、機構改革等に伴う担当課の変更ならびに事業名の変更

○小浜市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員名簿

No.	所 属 等	氏 名
1	市議会議員	西本 清司
2	市議会議員	藤田 靖人
3	仁愛女子短期大学	内山 秀樹 (議長)
4	福井県立大学	江川 誠一
5	市区長連合会	桂田 定樹
6	小浜商工会議所	平野 泰之
7	Wakasa Agri21	山本 聡
8	市漁村青壮年協議会	河原 正和
9	若狭おばま観光協会	浅野 麻由美
10	市社会福祉協議会	渡辺 一弘
11	市PTA連合会	上田 哲也
12	若狭東高等学校	小野 浩亨
13	小浜公共職業安定所	和多田 圭祐
14	地域おこし協力隊	相澤 弘美

(敬称略 順不同)